

3幕3場のさかしまな結婚の場面と4幕2場の Desdemona が Iago に嘆願する場面の類似性から *Othello* を読み解く

村上 世津子*

(平成29年10月31日受理)

Reading *Othello* as a Tragedy Caused by the Mixture of Othello's Innate Jealousy and Nobility

Setsuko MURAKAMI*

Tragedy of *Othello* is generally thought to be caused by his choice of Iago instead of Desdemona in the temptation scene in Act 3 scene 3. Critics say vows Othello and Iago take remind the readers of marriage vows. They say, when Othello appoints Iago to be his lieutenant, he supersedes not only Cassio but also Desdemona. However, when I read *Othello*, I noticed the resemblance between this scene and the scene in Act 4 scene 2 in which Desdemona asks Iago to help her reconcile with Othello. This resemblance challenges the view that Othello's tragedy is caused by his choice of Iago in the temptation scene. This paper discusses how the tragedy of Othello is caused by the mixture of his innate jealousy and nobility instead of his choice of Iago in Act 3 scene 3.

Key words: *Othello*, Desdemona, Iago

1. はじめに

Othello についての伝統的な解釈は次の2つに大別できる。1つは、Bradley や Rosenberg に代表される解釈で、*Othello* は Desdemona を殺す直前まで彼女を愛していたが Iago があまりにも狡知にたけていたので Desdemona は Cassio と不義を犯したという Iago の讒言を信じ Desdemona を殺し彼自身も破滅すると解釈する。もう1つは F. R. Leavis や T. S. Eliot に代表される解釈で *Othello* はあまりにも唯々諾々と Iago にだまされる、*Othello* が Iago の策略にかかるのはその策略の緻密さに主因があるのではない、*Othello* に内在している残虐さが Iago の讒言をきっかけに表出して Desdemona 殺しをするに至ると解釈する。策略家としての Iago の力量の評価が *Othello* の評価の分かれ目であるが、*Othello* は Iago の奸計にかかって破滅する、具体的には3幕3場のいわゆる temptation の場面で Iago を信じるか Desdemona を信じるかの選択を突きつけられたときに Iago を選ぶことが

* 工学科(基礎教育・教養系)准教授

Associate Professor, Division of Fundamental Education and Liberal Arts, Department of Engineering

Othello の破滅につながるという解釈は両陣営に共通した認識であり Othello 解釈の定説である。そしてしばしば Othello が Desdemona に対する復讐を誓うのを受けて Iago も Othello に対する忠誠を誓う場面は、跪く動作や Iago の台詞の中の “hands”(3.3.469)、“heart”(3.3.469)、“service”(3.3.470)、“obey”(3.3.471)という語の使用、そして Othello がその誓いを “sacred vow”(3.3.464)と呼んでいることから Othello と Desdemona の結婚の儀式に呼応するものであり、この場面以降 Iago は Othello の人生において Cassio に取って代わるだけでなく Desdemona をも取って代わると考えられてきた(Neill 37, 311; 『シェイクスピア大図鑑』246)。そしてこれ以降 Othello は「これまでの英雄像とはおよそ裏腹なあさましくも愚かしい人間的弱みを露呈[し・・・]憐憫あるいは侮蔑の対象」(笹山 310) となると解釈されてきた。

しかし *Othello* を読んだときに引っ掛かりを覚えた箇所がある。4 幕 2 場で Othello に売女呼ばわりされて一時は「主人」などいない—“I have none.”(4.2.104)—と声明したものの、Othello への思いを捨てきれないで Iago にとりなしをお願いする時の Desdemona と Iago の会話である。

Desdemona: O God, Iago,
What shall I do to win my lord again?
Good friend, go to him, for, by *this light of heaven*,
I know not how I lost him. *Here I kneel.*

中略

Iago: I pray you, be content, 'tis but his humour;
The business of the state does him offence
And he does chide with you.

Desdemona: If 'twere no other —

Iago: 'Tis but so, I warrant.

中略

Go in, and weep not; all things shall be well. (4.2.150-173 筆者強調)

Desdemona への復讐を誓った 3 幕 3 場の Othello の台詞と対照的に上記の引用の中で Desdemona は彼女の潔白と Othello に対する愛を Iago に切々と訴えかける。Othello の台詞と Desdemona の台詞の対照的な相違を認めた上でこれらの台詞に潜在する類似性を指摘したい。3 幕 3 場で Othello が “yond marble heaven”(3.3.463)にかけて誓うなら 4 幕 2 場で Desdemona は “light of heaven”(4.2.152)にかけて誓う。Othello の使用する “sacred”(3.3.465)は Desdemona が使用する “heaven”(4.2.152)と関連のある語である。さらには “Do not rise yet”(3.3.465)という Iago の台詞と Desdemona 自身の台詞の中の

“Here I kneel”(4.2.153)は *Othello* も *Desdemona* も彼らの台詞を言う時に跪いていることを示唆する。Bradley は 4 幕 2 場の *Iago* について、かすかな羞恥心や良心の呵責を感じているように思えると指摘する(Bradley 235)。また 2004 年に Gregory Doran 監督 Royal Shakespeare Company 演出の *Othello* で *Iago* 役を演じた役者の Sher は、この箇所の *Iago* を慈しみ深く演じたので観客が *Iago* は不憫に思って計画を失敗するのではないかと期待しても許されるだろうと述べている (Sher 239)。4 幕 2 場の *Desdemona* と *Iago* の関係は夫婦とまでは言えないにしても親密な関係を醸し出しているのである。よりいっそう問題なのは *Desdemona* が *Iago* に *Othello* のところに行ってくれとお願いすることである(4.2.152)。Shakespeare の source である Cinthio の話の中では *Desdemona* は *Iago* ではなく *Emilia* に嘆願する(Sanders 159)。Cinthio の話のままなら 3 幕 3 場のいわゆるさかしまな結婚の場面との類似性は存在しない。Shakespeare が *Desdemona* の嘆願相手を *Emilia* から *Iago* に変えていることは、この類似性は偶然の産物ではなく Shakespeare が意図したものであると考えられる。この類似性の存在は、*Othello* が *Iago* を選ぶことが彼の破滅の原因になるという考え方は修正を必要とすることを示唆しないだろうか。

2. *Desdemona* のテストをする *Othello*

2.1 頭が痛いと言って *Desdemona* の反応を見る *Othello*

Othello の破滅は本当に 3 幕 3 場の *Iago* との対決の場面で *Othello* が *Iago* を切れないことが原因なのかという疑問を頭の片隅に置いて *Othello* を読むと 3 幕 3 場の終わりの *Othello* と *Iago* のさかしまな結婚を連想させる誓いにも拘わらず *Othello* は *Iago* の提供する情報をそのまま信じたりはせず何度も何度も *Desdemona* をテストして彼自身が *Desdemona* の貞節を確かめようとすることに気づく。その最初のテストは 3 幕 3 場 281 行目から 293 行目にかけて行われる。このテストだけは 3 幕 3 場の終わりの *Othello* と *Iago* の間で交わされる誓いに先立って行われる。

劇の初めで絶対の自信を持っている時には *Othello* は Brabantio から魔術を使って娘の心をたぶらかせたと言われても動じない。*Desdemona* を呼びにやって彼女自身の口から *Othello* との恋のいきさつを Brabantio に説明させることを提案する。Brabantio は娘の話聞いて *Othello* の潔白を認めざるを得なくなる。しかし *Iago* は *Othello* が *Desdemona* に全幅の信頼を寄せている時に *Othello* の信頼を傷つけ始める。*Iago* は 思わせぶりな口ぶりで *Othello* の興味を引いた後でいきなり“O beware, my lord, of jealousy!”(3.3.168)と 言う。 *Othello* が抵抗を試みると “she did deceive her father, marrying you,/ And when she seemed to shake, and fear your looks,/ She loved them most.”(3.3.209-11)と 言って 攻撃する。*Othello* の自信がなえ始めるのを見計らって *Iago* は同郷の人とか同じ肌色の人とか同じ身分の人からの求婚を退けて *Othello* のような、どこの馬の骨ともわからぬ男と

結婚するのは不自然だと言って追い打ちをかける。自信を失った Othello は Desdemona に捨てられたと思い、結婚を後悔し始める。とは言え Iago の退場と入れ替わりに Desdemona が登場すると彼女が不実なはずはないと思ひ直す。Iago と Desdemona のどちらを信じるべきか決めかねる Othello は Desdemona をテストする。Othello は頭が痛いと言って額を抑える仕草をするが、これはもちろん寝取られ亭主のシンボルである額に角が生えてきたことをあてこすって Desdemona の反応を調べようとするものである。潔白な Desdemona が Othello のあてこすりに気づかないのは当然である。彼女は Othello の言葉を額面通り受け取り Othello の快癒を願って彼の額をハンカチできつく縛ろうとするが小さすぎて落としてしまう。Desdemona が落としたハンカチは後に問題となる Othello からの最初の贈り物のハンカチであった。しかし Desdemona の仕草には何の疚しさも感じられないので Othello は Desdemona がハンカチを落としたことに気づいても気にも留めない(Briggs 173)。むしろ “Let it alone”(3.3.292)と言って Desdemona にそれを拾わせない。Othello が Desdemona はこのテストに合格したと感じていることは次に Iago に会ったときに Othello が “Ha! Ha! False to me?”(3.3.336)や “Avaunt, be gone”(3.3.338)という言葉を投稿つけて真っ向から勝負を挑むことによって示唆される。

しかし Iago に反撃される前に Othello 自らが “He that is robbed, not wanting what is stolen,/ Let him not know’t, and he’s not robbed at all”(3.3.345-46)と言うことは、Othello は Desdemona が合格最低点を取ったに過ぎないと感じていることを示唆する。そして “I had been happy if the general camp,/ Pioneers and all, had tasted her sweet body,/ So I had nothing known.”(3.3.348-50 筆者強調)は “general camp”が Desdemona の体を味わったのは想像上のことだとしながらも Othello は Desdemona の不貞行為が彼の想像しうる範囲内に収まると認めることを示唆する。さらには “general camp”が “her sweet body”を味わっていたとしても Othello が気づかなかつたなら幸せであつたらうにと言うことは、この台詞において Othello が重要視しているのは Desdemona が不貞行為をしたか否かではなくて彼女の不貞行為を Othello が知ってしまったことだということが示唆されている。つまり断定はしないものの Othello は Desdemona が不貞を犯したと思っていることがこの台詞によって示唆される。

この後に続く台詞の中で Othello が “tranquil mind”(3.3.351)や “content”(3.3.351)や “Pride, pomp and circumstance of glorious war”(3.3.357)換言するならば “Othello’s occupation”(3.3.360)が失われてしまったと感じるのは Desdemona が不貞を犯したと思うからである。法の変化も重要である。348 行目から 350 行目にかけては仮定法が使われていたのに対して 350 行目から 360 行目にかけては叙述法が使われる。法の変化は Othello の思考の中で Desdemona の不貞が想像から事実へ転じたことを示唆する。とは言え Othello は Desdemona が有罪だと決定するには至っていない。むしろ Othello の苦しみは “I think my wife be honest, and think she is not”(3.3.387)という宙ぶらりんの状態に由

来する。宙ぶらりんの苦しみから脱したいから Iago に証拠を求めるのだが、Othello が “ocular proof”(3.3.363)や “living reason”(3.3.412)にこだわるのは有罪であることが断定できない限りは Desdemona を信じたいという気持ちの表出であると思われる。

2.2 ハンカチのテスト

Othello の強要に応じて Iago は “imputation and strong circumstances/ Which lead directly to the door of truth”(3.3.409-410)する証拠として Cassio が寝言で Desdemona に対する愛を告白するのを聞いたことと、Cassio は共寝した Iago を Desdemona と思ってキスしたり足を絡ませたりしてきたという話をする。こうして Othello の気持ちにさらなる揺さぶりをかけた上で Cassio がいちごの模様のついたハンカチで顎髭を拭くのを見たと言う。Iago の話が本当なのか Cassio が顎髭を拭くのに使ったハンカチは Othello が Desdemona に与えたハンカチなのか、そうだとした場合 Cassio がそれをどうやって入手したかは不明なのに Othello は Iago の話を聞いて Desdemona に復讐を誓う。だが 3 幕 4 場で Iago の話の真偽を確かめるために Desdemona が件のハンカチを持っているかをテストする。

鼻水が出るからハンカチを貸してくれと言うときに Othello は彼が最初の贈り物として与えたハンカチを特定する。Desdemona が手元にないと主張すると Othello はそのハンカチの特殊性を次のように説明する。すなわち、そのハンカチは人の心を読むことのできる魔法使いであるエジプト女が Othello の母に与えたものであるが、その女が言うには母がそのハンカチを所持している限り父のことを思いのままにできるが、失くしたり人にやったりすれば破滅の元になるというものである。Othello の話を聞いて Desdemona が脅えた様子を見せると Othello は Desdemona にハンカチの有無を告げるように詰め寄る。すでにハンカチを失くしてしまっている Desdemona が Othello にそれを見せることができないのは当然だが Othello の話が怖くて失くしたことを正直に認めることができずに “Why so I can, sir; but I will not now”(3.4.88)と言って小さな嘘をつく。もしここで Desdemona が失くしたことを正直に認めていれば Othello は Cassio にやったか否かを尋ねたかも知れない。そして Desdemona が疑うなら Cassio を呼んで聞いてみればよいと答えていたなら話は全く別の展開をいただろう。Desdemona の小さな嘘が彼女と Othello の破滅につながることは確かだが、彼女がつく小さな嘘は Othello のつく大きな嘘に誘発されたものであることを見逃してはならない。

Desdemona を脅すときに Othello は “She told her, while she kept it/ ’Twould make her amiable and subdue my father/ Entirely to her love”(3.4.60-62)と言ったが Desdemona がハンカチを失くすのは 3 幕 3 場 292 行目で Othello が最初のテストをする最中である。最初のテストに先立ち 3 幕 3 場 245 行目で Desdemona がまだハンカチを所有している時にすでに Othello が結婚を後悔し始めていることは Othello が説明するハン

カチの効用と齟齬をきたす。嘘をついて脅すことによって Othello は Desdemona の心を頑なにして結局 Desdemona がハンカチを失くしたり人にやったりしたのか、それとも Desdemona の主張する通り今たまたま手元になっただけで別の場所に大切に保管しているのかわからず終いになる。“Zouuds!”(3.4.99)という罵りの言葉を残して Othello が退場するのは、Desdemona は Othello の課すテストに及第できなかったが落第したとも言えないからである。

2.3 Lodovico に手渡された手紙を読みながらのテスト

3 番目のテストは Othello が計画したものではなく手紙に夢中になっていると見せかけて Desdemona の言動に注意を払うことによって彼女に気づかれずに Desdemona をテストしようとするものである。Othello を完全に落とすために Iago は Othello に、Cassio に Desdemona との情事を告白させるから自分の耳で聞いて確かめたらよいと言う。Othello は Cassio が Bianca の話をするのを聞いて Desdemona との情事を語っていると思い憤慨する。Iago さえ予想しなかったことには、そこに Bianca が登場して問題のハンカチを投げつける。Othello は Cassio が Desdemona からもらったハンカチを Bianca にくれてやったと思う。Othello はついに Desdemona の不貞の証拠をつかんだと思う。それでもまだ Desdemona に未練のある Othello に Iago は寝取られた報いとして Desdemona が汚したまさにそのベッドの上で彼女を絞め殺すことを提案する。Othello が正当な報いだと納得すると Iago は Cassio 殺しを引き受ける旨を告げる。その時トランペットが鳴り Lodovico が公爵からの手紙を Othello に渡す。Othello はその手紙に熱中しているフリをして Desdemona の様子を観察する。彼の耳で Cassio が告白するのを聞き、彼の目で Bianca が Cassio からもらったハンカチを投げ返すのを見てもなおかつ Desdemona を信じたい気持ちが残っているから Desdemona の言動を注意深く観察することによって彼女にテストするのである。Desdemona が Lodovico に Cassio と Othello の間に不自然な溝が存在するが Lodovico が万事解決してくれるだろうと言うのを聞くと “Are you sure of that?”(4.1.226)と言う。Othello のこの台詞は Desdemona の発言をいぶかしみながらも Desdemona の主張が実現する可能性も残されていると感じていることを示唆する。今回のテストの第 1 問はとりあえず合格点を取ったと感じるから手紙を読みながら Desdemona を観察し続けるのである。

しかし Desdemona が “I would do much/ T'atone them, for the love I bear to Cassio”(4.1.232)と言ったときには人前であるにも拘わらず Othello は激情を抑えることができない。“for the love I bear to Cassio”という Desdemona の台詞をついに Desdemona が Cassio に対する愛を認めたと解釈するからである。“... command him home,/ Deputing Cassio in his government”(4.1.235-236)という手紙の内容が Othello を激怒させたのだろうと言う Lodovico の言葉に Desdemona が喜ぶと Othello は完全に自制

心を失って Desdemona を殴る。Neill が指摘するように “deputing” という語を “substitute” という意味に解釈すると取って代わられるという意味を帯びる (Neill 338)。Desdemona は Othello が lieutenant である Cassio に取って代わられる、より明確に述べるならば、寝取られることを喜んでしていると判断したから Othello は Desdemona を殴るのである。そしてまるで悪魔か何かを追い払うかのように Desdemona に “Out of my sight!” (4.1.246) という言葉を投げつける。Lodovico に言われて Desdemona を呼び戻した後で Othello は次のように言う：

Ay, you did wish that I would make her *turn*,
Sir, she can *turn*, and *turn*, and yet go on
And *turn* again. And she can weep, sir, weep.
And she's *obedient*: as you say, *obedient*,
Very *obedient*. (4.1.242-256 筆者強調)

Arden 注が記しているようにここでの “turn” は “turn back” だけでなく “be fickle” や “the best turn i'the'bed” をも意味する。そして “obedient” は唯々諾々と性交渉に応じること (OED 3) をも含意する。Desdemona が退場した後に Othello がつぶやく “Cassio shall have my place” (4.1.261) の “my place” はもちろん Cyprus 島の統治者としての地位と恋人としての地位がかけられている。(以上 Honigmann 274)。Othello が “Goats and monkeys!” (4.1.263) という盛りを連想させる叫びを残して退場することは、Othello は Desdemona が3度目のテストに落第したと感じていることを示唆する。

2.4 売春宿のテスト

Othello は Desdemona が3番目のテストに落第したと感じたからと言ってそれでテストを打ち切りにはしない。Iago が提示してきた状況証拠と Othello が自分でしてきたテスト結果を踏まえてもまだ Desdemona を信じたい気持ちを抑えることのできない Othello はさらなるテストを行う。4番目のテストが行われるのは4幕2場のいわゆる売春宿の場面である。断定するには至らないがすでに Desdemona はほぼ確実に不義を犯したと思う Othello はこれまでとは打って変わって厳しいテストをする。テスト中の Desdemona の反応から Othello の態度が豹変したり人前で Desdemona を殴りつけたりすることがあっても今までのテストでは少なくともテスト開始時の Othello の態度は Desdemona の気持ちを傷つけないように、彼女に気づかれないようにテストしようとしてきた。しかし4番目のテストでは Othello は心のうちで Desdemona が有罪だと思っていて間違いがないように念押しするためにテストをするだけである。最初から Desdemona を売女扱いして彼女の振る舞いが Othello の判断を覆させるか確かめようとする。ただしこのテストは最終

テストになるので遺漏のないように Desdemona 本人にテストするだけでなく、それに先立ち Emilia から事情聴取する。しかし Othello は “I durst, my lord, to wager she is honest”(4.2.12)と言う Emilia の証言を聞いても考えを変えることはしない。むしろ、それくらいのことを言えなければ女衞は務まらないと思う。そこで Desdemona を呼んで尋問する。そのためには Emilia を追い払って Desdemona と 2 人切りになる必要がある。Othello は Emilia を人払いする時に次のように言う。

Some of your function, mistress,
Leave procreants alone and shut the door;
Cough, or cry hem, if anybody come.
Your mystery, your mystery: nay, dispatch! (4.2.27-30)

上記の引用中の “function” も “mystery” も女衞としての仕事を意味する。そして “procreants” は情事をする者、すなわち Othello と Desdemona を指す。29 行目で誰かが来たら咳払いして知らせよと言うのは、これから 2 人が行おうとする行為が正常な夫婦間の愛の営みではない、他者に知られてはならない行為であることを示唆する。つまり Othello は上記の引用の中で Emilia のことを女衞、Desdemona を淫売に見立てている。身に覚えのない Desdemona は Othello の言っていることの意味が分からない。遠回しに言っても意味が伝わらないことを知った Othello は “false”(4.2.41) という語を使用してより明確に Desdemona の不貞に言及する。Othello の言わんとすることをおぼろげに理解した Desdemona は “To whom, my lord? with whom? how am I false?”(4.2.41) と聞く。しかし “false” という語は性的な事柄よりももっと広い事柄に関して “true” でないことを意味する。Desdemona が Othello の意図をしかとは理解していないことは “how am I false?” と Othello に問うことが示唆する。Othello が Desdemona の行動に不満を持っていることまでは理解できるが、彼女の行動の何がどう Othello の気に障っているかまでは理解できないので Othello が Venice に召還されたのは Brabantio の差し金だと思っていらっしゃるのかというトンチンカンなことを口にする。Othello が “The fountain from the which my current runs/ Or else dries up – to be discarded thence!”(4.2.60-61) する苦しみを味わわされているのだと言った時に Desdemona は “I hope my lord esteems me honest”(4.2.66) と答えて “honest” という言葉を口にする。それでもまだ Desdemona は彼女の貞淑が疑われているとは信じられず “What ignorant sin have I committed?”(4.2.71) と尋ねるので Othello はついに “whore” という言葉を投げつける：

Was this fair paper, this most goodly book
Made to write “whore” upon? What committed!

Committed? O thou public commoner!

中略

Impudent strumpet! (4.2.72-82)

Desdemona が否定しても “Are not you a strumpet?”(4.2.83), “What, not a whore?”(4.2.88)と聞き “I took you for that cunning whore of Venice/ That married with Othello”(4.2.91-92)という捨て台詞を残して退場する。

この「売春宿の場面」は一見したところ、ほぼ完全に Iago の罠に落ちた Othello が Desdemona を苦しめているだけで、彼女をテストする場面には見えないかもしれない。しかし Desdemona に尋問するのに先立ち Emilia から Desdemona は貞淑だと言う証言を得た時に、結局は “she’s a simple bawd/ That cannot say as much”(4.2.20-21)と言って退けはするものの、その前に “She says enough”(4.2.20)と言っていることは Emilia の発言に一定の評価を与えていることを示唆する。そしてそれくらいのことを言えなければ女衒は務まらないと言った後で Desdemona は油断ならない淫売だと続けてその後すぐまた “And yet she’ll kneel and pray, I have seen her do’t”(4.2.23)と言う。このように Desdemona は淫売だと決めつけたかと思えば打ち消し、打ち消したかと思えば決めつけることを繰り返した後で Desdemona と向き合うことは、売春宿の場面は嫉妬で理性を失ってしまった Othello が Desdemona を苦しめることに主眼があるのではなく Desdemona の貞節についての最終判断を下すためにこれまでにない厳しいテストをすることにあることを示唆する。テストであるから Desdemona を呼んだ後で Othello がまずすることは、彼女の目を覗き込んで彼女が嘘をついていないか確かめることである。目を覗き込んでも彼女が嘘をついている証拠を見つけれない Othello は次に “Why, what art thou?”(4.2.34)という根源的な問いをする。それでも Desdemona の不貞の証拠を見つけれないので “false”という言葉をつつける。それでもまだ Desdemona が不義を認めないのでついには “whore”や “strumpet”という Shakespeare の時代の女性に対する最大の侮辱語を投げつける。そこまでしても Desdemona は頑として彼女が whore であることを認めないので Othello は “I cry you mercy then,/ I took you for that cunning whore of Venice/ That married with Othello.”(4.2.90-92)という捨て台詞を残して出て行く。Othello は退場する時に Emilia に “We have done our course, there’s money for your pains”(4.2.94-95)と言う。ここでの “course”は性交渉を意味する。そして “money for your pains”は女衒を務めた駄賃を意味する。Othello はあくまで Desdemona を淫売、Emilia を女衒扱いして退場するのである。しかしながら “I cry you mercy then,/ I took you for that cunning whore of Venice”は Desdemona に対する痛烈な当てこすりである一方で Othello の敗北宣言でもある。そこまで厳しいテストをしても Desdemona が不貞を働いたという証拠を見つけないことができなかつたから、当てこすりを言って退出せざるを得な

くなるのである。

2.5 Desdemona 抜きの Desdemona のテスト

このように3幕3場の終わりで Iago とさかしまな結婚のイメージを連想させる誓いをした後も Othello は決して Iago の言葉を鵜呑みにするわけではなく、むしろ Desdemona と Iago のいずれが “honest”かを確かめるために Desdemona のテストを続ける。テストの結果は回を追うごとに Desdemona にとって厳しいものになるが4回のテストを課しても Othello は Desdemona が極めて疑わしいという結論しか導き出せず不貞を働いたという決定を下すことはできなかった。Othello が Desdemona を信じるか Iago を信じるかの選択で最終的に Iago に軍配を挙げるのが5幕1場である。

Cassio は鎧を着ていたので Roderigo に襲われても無傷であったが背後から忍び寄ってきた Iago に足を刺されて “I am maimed for ever! Help, ho! Murder! Murder!”(5.1.28) と叫び声をあげる。助けを求める Cassio の声を聞いた Othello は Iago が4幕1場で Othello に Desdemona 殺しをすすめる担保として提案した、彼自身は Cassio 殺しを担当するという約束を守ったと思う(4.1.208)。友の受けた不当な仕打ちを我がこととして感じて友に代わって仇討までしてくれたとあっては Othello も Iago の心意気に答えなければならないと思う: “Tis he. O brave Iago, honest and just,/ That has such noble sense of thy friend’s wrong!/ Thou teachest me.”(5.1.31-33) Othello は Desdemona 抜きのテストで Desdemona にクロ判定を下す。

2.6 Desdemona 殺し直前のテスト

Desdemona 抜きのテストについて Iago の honesty に軍配を挙げた Othello は Desdemona 殺しを執行するために彼女の寝室に入る。Desdemona は淫売だという最終決定を下したもののまだ彼女に未練がある Othello は彼がしようとする行為は私怨による復讐ではなく “she’ll betray more men”(5.2.6)するのを避けるための “justice”(5.2.17)であると思ひこもうとする。しかしながら自分の心をだまそうとする Othello の試みは Desdemona の美しさの前には無力である。Desdemona の美しさに心を乱された Othello は何度もキスして Desdemona を起こしてしまう。Othello はすでに Desdemona の貞淑問題については決着をつけたつもりでいたが、Desdemona が目を覚まし彼女と言葉を交わすことによって Desdemona 殺害直前の彼女との会話が事実上最後のテストになる。目を覚ました Desdemona に愛するが故に殺すという考えは不自然だ、一体何が問題なのかと聞かれて初めて Othello は “That handkerchief/ Which I so loved and gave thee, thou gavest/ To Cassio”(5.2.47-49)と言って問題の核心を突く発言をする。Desdemona は5幕2場49-50行、58-61行、66-67行で3度も明確に容疑を否定し、証人として Cassio を呼んで欲しいと言うが、Othello はもはや聞く耳を持たない。それは1つには物陰から聞い

た Cassio が語る Bianca についての惚気話を Desdemona との情事の告白だと思ったからで、もう1つには Cassio はすでに Iago によって殺害されてしまっていて物理的に喚問できないと思うからである。Othello の応答を聞いて Desdemona は “Alas, he is betrayed, and I undone.”(5.2.75) と言う。ここで Desdemona は “betray” を “To give up to, or place in the power of an enemy, by treachery or disloyalty”(OED 1.a) という意味で用いているが Othello は “To reveal or disclose against one’s will or intention the existence, identity, real character of (a person or thing desired to be kept secret)”(OED 6) という意味に解釈する。“Alas, he is betrayed, and I undone.”を事実上の Desdemona による Cassio との情事の告白だと受け取ったときに Othello からためらいが消える。Othello はもはや Desdemona に祈りの時間さえ与えず絞め殺すのである。

3. Desdemona のテストの欠陥

3.1 Desdemona 抜き Desdemona のテストと殺害直前のテストの欠陥

3幕3場の終わりの “Now art thou my lieutenant”(3.3.481) はしばしば Othello が Iago に副官としての Cassio の地位を与えるだけでなく妻としての地位を与える(Neill 312) と解釈される。また Othello の言葉を受けて言う Iago の “I am your own for ever” はその字句と反対の意味、“you belong to me through all eternity”(Honigmann 244) すなわち Iago が Othello の魂を陥れた契約を示唆する(Neill 479) と解釈される。しかしこれまで議論してきたように Othello は決して Iago に魂を売ってはならず、むしろ何度も Desdemona のテストを繰り返し、Desdemona と Iago のどちらが正しいのか Othello 自ら判断しようとする。なるほど Iago が Othello の嫉妬心に働きかけなければ Othello が Desdemona にとって “A most dear husband”(2.1.289) になるであろうことは Iago 自身の認めるところである。さらには上記の Desdemona 抜き Desdemona のテストで述べたように Othello が最終的に Desdemona にクロ判定を下すのは、助けを求める Cassio の叫びを聞いて Iago が Othello との約束を守ったと思った、つまり Iago に騙されたからである。Othello 自身に内在する嫉妬心とそれを巧みに利用する Iago のだましのテクニックがなければ Othello が Desdemona を殺すことはなかったであろう。それを認めた上で何度もテストするのに Desdemona の貞節を見抜けなかったのはそのテストに欠陥が存在するからだと思われる。

Hays は1幕3場の冷静・公平な公爵の判断と5幕2場の性急で一方的な Othello の判断を比較して Othello は判事としての適性に欠けていると指摘する(Hays 200)。Moschovakis と Halio も別の観点から同様のことを指摘する。1幕3場で Brabantio が公爵に Othello は魔術を使用して娘の心をたぶらかしたと訴えた時に公爵は “To vouch this is no proof,/ Without more certain and more overt test/ Than these thin habits and poor likelihoods/ Of modern seeming do prefer against him”(1.3.107-110) と言って

Brabantio の言い分を鵜呑みにせず Othello の言い分にも耳を傾ける。そして Desdemona を呼んで彼女自身に証言させて欲しいと言う Othello の訴えを聞き入れる。Desdemona の証言で Othello の潔白が証明され Brabantio は 渋々ながらも Othello と Desdemona の結婚を認める。それに対して 5 幕 2 場で Othello が Desdemona 殺しをする直前で Desdemona が Cassio を呼んで彼に聞いてと言う時に Othello は彼女の言い分に耳を貸さない。その理由の 1 つは Iago がすでに Cassio の息の根を止めてしまっているから Cassio を呼んで問いただすことは物理的に不可能だと考えるからである。しかし Cassio はすでに Iago が殺害してしまっているから証人喚問できないと考えるなら代わりに Cassio の下人である (と Othello が信じている) Iago と Desdemona の擁護者である Emilia を 2 人同時に呼んで Othello と Desdemona の前で証言させていれば悲劇は避けられたであろう。土壇場で重要な反証が提出されているのにそれをないがしろにするのは Hays の指摘するように判事としての Othello の不適性を明らかにし、適性を欠いた判事によって下される審判の不正を明らかにすると思われる。とは言え最後のテストはすでに有罪判決を下した後の言わばおまけ的なテストだから不備があるのは仕方がないかもしれない。問題はそれより前の実質的なテストにも欠陥が見られることである。

3.2 最初の 4 回のテストの欠陥

3.2.a 最初のテストの欠陥

最初のテストで Othello はここが痛いと言って額を抑えることによって寝取られ亭主の痛みを当てこするが、そのジェスチャーは両義的である (Neill 299)。Desdemona が額面通りに受け取るだけでなく Emilia さえも Othello のあてこすりに全く気が付かない。Emilia はこの時 Desdemona が Othello の額を縛ろうとして落としたハンカチを拾って喜ぶ。Iago が彼女に盗むようにせがんでいたハンカチだからである。Emilia は Iago がそのハンカチを何に使うかは知らない。しかし彼女はそのハンカチが Othello からの最初の贈り物で Desdemona はそれをとても大事にし、いつもそれにキスしたり話しかけたりしているということも、Othello が彼女に常にそれを手元に置いておくように命じていたことも知っている。Desdemona はそのハンカチを Iago に渡すときにそれを何に使うつもりなのかと聞いて “Poor lady she’ll run mad/ When she shall lack it”(3.3.321-22)と付言する。ハンカチは Othello が Desdemona に有罪判決を下す重要な証拠になる。もし Othello の、寝取られ亭主を当てこするジェスチャーが少なくとも Emiliaに通じる程度に明確なものであれば彼女は Iago にそれを渡さなかったであろう。第 1 回目のテストは全くテストになっていないだけでなく Othello と Desdemona の破局の主要な原因になるのである。

3.2.b ハンカチのテストの欠陥

2 回目のテストで Othello はハンカチの来歴を脚色して Desdemona を脅した上で

Desdemona にハンカチを見せろと言う。ハンカチを失くしてしまっている Desdemona は当然 Othello にハンカチを差し出すことができないが Othello はその理由を確かめることができない。シロともクロとも判断がつかないので Othello は憤慨して出て行くが Emilia と Desdemona の次の会話から Othello の2回目のテストにも欠陥があることが示唆される：

Emilia: Is not this man jealous?

Desdemona: I ne'er saw this before,

Sure there's some wonder in this handkerchief,

I am most unhappy in the loss of it.

Emilia: 'Tis not a year or two shows us a man.

They are all but stomachs, and we all but food:

They eat us hungerly, and when they are full

They belch us. (3.4.100-107)

身に覚えのある Emilia は Othello の嫉妬に薄々気づき “Is not this man jealous?” と聞くが、全く身に覚えのない Desdemona は Othello の豹変に驚きつつも Othello の脅しを額面通り受け取り、ハンカチに不思議な効力があるのは本当だと思う。104行目から107行目にかけての男性は熱烈に求婚するけれど、やがて飽きれば惚れた女房に見向きもしなくなるものだという Emilia の台詞の中の “They”(3.4.105,106,107)の使用は Emilia のコメントが Othello の人格についての批評というよりも男性一般についてのコメントであることを示唆する。3幕4場の初めでハンカチを失くしたことに気づいた Desdemona は、Othello は嫉妬心とは無縁だから良いものの他の男性なら邪推させる要因になるだろうと言う。ハンカチを盗んだ犯人である Emilia は気にして “Is he not jealous?”(3.4.29)と聞く。Desdemona が大丈夫だと太鼓判を押すので Emilia は安心する。Othello が執拗にハンカチを見せろと強要するのは彼女のお願いをごまかすための便法だと思った Desdemona が Cassio の話を持ち出すと Othello は憤慨して出て行った。それを見た Emilia は100行目でハンカチの喪失と Othello が Cassio に嫉妬することの関係を勘ぐる。しかし当の Desdemona が Othello の怒りを額面通りハンカチの持つ不思議な力の中にあるとしか考えないので104行目から107行目にかけての Emilia の台詞も男性一般の移り気に関するコメントに移行する。悪いことには一番 Othello を Iago から遠ざけなければならないときに Desdemona は Iago に Othello のところに行くようお願いする(3.4.141)。Iago と言葉を交わして気を取り直した Desdemona は155行目から157行目にかけてと159行目から162行目にかけて Emilia が再度 Othello の嫉妬の可能性に言及しても “Heaven keep that monster from Othello's mind”(3.4.163)と言うにとどまり Othello が嫉妬を抱いてい

る可能性について真剣に考えてみようとはしない。それどころか彼女の何がテストされているのか、いやそもそもテストされているということすら理解できない Desdemona は Cassio に Othello を捜して彼の機嫌が直っているなら彼のお願いを再度切り出してみると約束する。再三の彼女の警告にも拘わらず Desdemona の Othello に対する信頼が揺るがないので Emilia は Desdemona が Cassio のためにとりなしをしようとするのを止めない。もし Othello が Desdemona を脅す代わりに Iago が、Cassio が Othello から Desdemona への最初の贈り物であるハンカチで顎鬚を拭くのを見たと言っているがお前は Cassio にハンカチをやったかと聞いていれば、この時点で悲劇への進行は食い止められたはずである。決定的な質問を回避することによってここでも Othello は自ら悲劇を回避する手段を潰すのである。

3. 2. c 手紙を読みながらのテストの欠陥

3 番目のテストでは Othello はジェスチャーや言葉で Desdemona と Cassio の関係を当てこすって Desdemona に不快な気分を味わわせるだけでない。衆人環視の中で Desdemona を殴って彼女に精神的・物理的苦痛を与える。他にも前 2 回のテストとの大きな相違点がある。1 つは Desdemona の傍らに居るのが Emilia でなく Lodovico であることで、もう 1 つは Desdemona がすでに Othello と Cassio の間に “unkind breach”(4.1.225) が存在することを知っていることである。さらには Othello が Desdemona の言動を注意深く観察するのと同様に Desdemona も Othello の様子を気にする。Othello が “Are you sure of that?” とつぶやくのを聞いて Desdemona が “My lord?”(4.1.227) と尋ねるのは Othello の反応が気になるからである。前 2 回のテストでは Desdemona が無邪気で傍らにいた Emilia が Desdemona に警告を発していた。この場面では Desdemona がおぼろげに感じる不安の表現である “My lord?” を聞いて Lodovico が “He did not call, he’s busy in the paper”(4.1.229) と答えて Desdemona の不安をなだめる。

Othello が Desdemona を殴るのを見て Lodovico は Venice では信じられないことだと言って驚くが、この時点ではまだ Othello が “amends”(4.1.243) すれば Othello と Desdemona の関係は修復できると考える。Othello が Desdemona に “amends” するどころか彼女を追い払おうとするのを見ても Lodovico は忍耐強く “I do beseech your lordship, call her back”(4.1.248) と言って 2 人の関係を修復しようとする。Othello はその Lodovico の親切に付け込んで Desdemona を呼び戻して “What would you with her, sir?”(4.1.251) という開き直った発言をする。そして 252 行目から 263 行目では “turn” や “obedient” という心変わりや性的従順に関する言葉を連発した挙句に盛りのついた動物を連想させる “Goats and monkeys!” という捨て台詞を残して退場する。重要なことは変貌した Othello を見て Lodovico は “Is this the noble Moor whom our full senate/ Call all in all sufficient?”(4.1.264-65) と言って驚愕と失望をあらわにするものの Othello の変貌の原

因が嫉妬にあることにまったく気づかないことである。これは *Othello* はこのテストで性や心変わりに関する言葉を多用するものの彼が1番言いたいことを明言しないで遠回しにしか表現しないから第3者の客観的な目から判断して *Othello* の真意は伝わらないことを示唆する。前2回のテストで Desdemona が *Othello* の真意を理解できなかったのは Desdemona の理解力に問題があるのではなく *Othello* の迂遠な婉曲表現にあることを示唆する。

3.2.d 売春宿の場面のテストの欠陥

売春宿の場面のテストでは *Othello* は Emilia に彼が疑っているのは Desdemona と Cassio の関係であることを明確に告げている。そして扇子や手袋や仮面を取ってきてと言って席を外させようとはしなかったかと聞く。Emilia はそんなことは一度もなかった。奥様は貞淑ですと保証するが、*Othello* は Emilia の言葉を疑う。*Othello* が一番知りたいことは Desdemona が Cassio にハンカチをくれてやったかである。何故席を外させる理由の1つにハンカチを入れないのだろうか。Emilia は Desdemona のハンカチをくすねたことに疚しさを覚えている。もし *Othello* がハンカチを口にしていたら Emilia は彼女が Iago に頼まれてハンカチをくすねたことを告白しただろう。

同様のことは Desdemona に対するテストについても当てはまる。なるほど *Othello* はこれまでにない厳しい態度で Desdemona に接し “false” や “strumpet” や “whore” という究極の侮辱語を Desdemona に投げつける。しかし *Othello* は “To whom, my lord? with whom? how am I false?” (4.2.41) という Desdemona の核心を突く問いには答えず “Ah, Desdemon, away away away!” (4.2.42) と言ってはぐらかす。もしここで *Othello* が Desdemona の問いに向き合って Cassio にハンカチを与えたことが false なのだと答えていれば Desdemona は殺害される直前のテストでそうするように、彼女にかけられている嫌疑を明確に否定して Cassio を呼んで証言させてと言ったであろう。この時点ではまだ Roderigo は Cassio を襲っていないから Cassio を証人喚問することは可能である。*Othello* は Desdemona の核心を突いた問いに向き合わず彼女の問いかけをはぐらかすことによって悲劇を回避する絶好のチャンスを自ら潰しているのである。

4. *Othello* のテストは何故ことごとく失敗に終わるのか

4.1 貞節の持つ意味

それでは何故 *Othello* のテストはことごとく失敗に終わるのだろうか。最後の2回のテストで *Othello* が Desdemona にクロ判定を下したのは誤解による。Desdemona 抜きでテストで Desdemona にクロ判定を下したのは Cassio の助けを求める声を聞いて Iago が約束を守ったと思ったからであり、Desdemona 殺しの直前の会話では “betrayed” という語の意味を取り違えたからである。しかし最初の4つのテストで *Othello* が Desdemona の

潔白を見破ることができなかつたのは何が何でも黒白をつけたいという気持ちに反して Othello が核心を突く問いを避けるからである。なるほど売春宿の場面では明確に “whore” や “strumpet” という激しい侮辱の言葉を投げつける。しかし細部—Desdemona は Othello からの最初の贈り物であるハンカチを Cassio にやった—は口にしない。では何故 Othello は彼が一番聞きたい質問を避けるのだろうか。

売春宿のテストで Othello が Desdemona を whore 呼ばわりして退出した後 Desdemona は放心状態になる。それまでは Emilia に Othello が嫉妬している可能性を指摘されても Desdemona は Othello を信じ彼を弁護し続けてきた。しかし “whore” 呼ばわりされた後で初めて Desdemona は彼女には主人などいないと明言する。Desdemona はその後気を取り直して Othello のひどい仕打ちにも拘わらず彼と和解したいと思うようになる。だが Desdemona にとって “whore” という言葉の重みが軽減することはない。Iago に善後策を相談する時に “whore” という語を用いる代わりに “that name” (4.2.120) や “Such as she said my lord did say I was” (4.2.121) や “such” (4.2.125) 等他の語で置き換える。Desdemona にとって “whore” という語がこの上もない重みを持つことは 4 幕 3 場で来るべき死を予感した Desdemona と Emilia の間で交わされる会話の中でも反映されている。Emilia が世界と引き換えなら不貞を働くことは安いものだと考えるのに対して Desdemona は世界と引き換えにしてもそんなことはしないと断言する。そして Desdemona のこの貞節観は先に引用した 4 幕 2 場 58-61 行の Othello の台詞と呼応する。Othello と Desdemona は “Of years, of country, credit, everything” (1.3.98) が異なる。Desdemona と結婚するために Othello は “unhoused free condition” (1.2.26) を犠牲にしなければならなかつたし、Desdemona は “forsook so many noble matches, / Her father, and her country, and her friends” (4.2.127-28) を犠牲にしなければならなかつた。背景の全く異なる 2 人の結婚が成立するためには “I saw Othello’s visage in his mind” (1.3.253) という Desdemona の言葉や “My life upon her faith” (1.3.295) という Othello の言葉が表現する互いの信頼関係が不可欠である。その信頼関係の象徴がただ 1 人の男性に身体も心も捧げることが表現する貞節である。

4.2 ハンカチと貞節

3 幕 4 場でハンカチを見せろと言って脅すときに語るそのハンカチの来歴にまつわる話が多分に Othello の脚色であることはすでに議論した通りであるが、一方でそのハンカチは単なるハンカチではない。Othello は Desdemona にそのハンカチを常に手元に置いておくように命じていたし Desdemona も Othello の言いつけを守り、そのハンカチを Othello の形見だと思い大切にしてきた。3 幕 4 場 54 行で Othello にそのハンカチを見せろと言われる前に 3 幕 4 場 23 行でハンカチを失くしたことに気づいた Desdemona が気にして “I had rather have lost my purse / Full of crusadoes” (3.4.25-26) というのは

Othello に脅される前から Desdemona はそのハンカチの持つ意味を認識していたことを示唆する。ハンカチを手渡す前に Emilia は Iago と次の会話を交わす：

Emilia: What will you give me now
For that same handkerchief?
Iago: What handkerchief?
Emilia: What handkerchief?
Why, that the Moor first gave to Desdemona,
That which so often you did bid me steal. (3.3.309-313)

上記の引用の中で Emilia と Iago は *Othello* が Desdemona に与えた最初の贈り物であるハンカチとその他のハンカチを明確に区別している。Desdemona の貞節のシンボルとしてのそのハンカチの意義を熟知しているから Iago はそれを盗むように執拗に Emilia に命じていたのである。*Othello* のハンカチは決して “Trifles light as air”(3.3.325)ではないのである。

3幕3場の終わりで交わす誓いにも拘わらず *Othello* は決して Iago に騙されてしまったわけではない。Iago が提示する証拠を全面的に信じることを退け、自ら Desdemona の貞節を検証するために *Othello* は Desdemona を何度もテストするが *Othello* のテストがテストの用を足さないのは Cassio にハンカチをやって Cassio と寝たのかという核心を突く問いをすることが *Othello* と Desdemona の間の信頼を傷つけるからである。

4.3 狂気と justice

ここで Desdemona 殺し直前のテストについて再び考察したい。*Othello* が土壇場での Desdemona の反証に耳を貸さず彼女に祈りの時間さえ与えずに殺すことが卑劣で残虐な行為であることは否定しようもない。しかしながら *Othello* が一刻の猶予も与えないのは Desdemona と会話を続けることが “persuade/ Justice to break her sword!”(5.2.16-17) と思うからである。錯乱した *Othello* の思考の中で彼は “murder”(5.2.65)ではなくて “sacrifice”(5.2.65)するつもりなのである。 “This sorrow’s heavenly,/ It strikes where it doth love.”(5.2.22)という台詞は Desdemona 殺しを神が人類を救済するために愛する一人子、イエス・キリストを犠牲にした行為になぞらえていることを示唆する。*Othello* は Brabantio や *Othello* をだました Desdemona が “betray more men”(5.2.6)するのを防ぐために “The fountain from the which my current runs”である Desdemona を犠牲に供さなければならないと考えるのである。*Othello* による Desdemona 殺しが結局のところ *Othello* が主張するように justice に基づく行為ではなく狂気の産物に過ぎないことこそが *Othello* が Desdemona を愛していたことの証なのである。*Othello* の Desdemona 殺しは

錯乱した精神とその錯乱の中に存在する高貴さの産物なのである。

5. 結び

Othello についての伝統的な解釈は、Othello は高貴な性格の持ち主だが Iago の奸計にかかって破滅するとするものと Othello に元々内在していた残虐さが Iago の讒言をきっかけに表出してその結果 Othello は Desdemona 殺しをするに至ると解釈するものに大別できる。策略家としての Iago の力量の評価の違いが Othello 評価の違いにつながるが 3 幕 3 場の temptation の場面で Iago と Desdemona のいずれを信じるかの選択を突きつけられたときに Iago を選ぶことが Othello の破滅につながるという解釈は両陣営に共通している。しかし 3 幕 3 場の終わりで Othello と Iago が誓いを交わす場面と 4 幕 2 場で Desdemona が Iago に嘆願する場面の類似性は 3 幕 3 場で Iago を信じるか Desdemona を信じるかの究極の選択を突きつけられたときに Iago を選んだことが Othello の破滅の原因となるとする考え方が修正を必要とすることを示唆する。

Othello を詳しく読むと Othello は 3 幕 3 場の temptation の場面で Iago と誓いを交わした後も Iago の提供する情報を全面的には信用せず彼自らが Desdemona をテストしようとすることに気づく。Othello のテストは 4 幕 1 場で Cassio が語る Bianca の話を Desdemona との情事だと思って憤慨している時に Bianca が登場して件のハンカチを投げつけて去った後も続く。それだけ慎重にテストを重ねているにも拘わらず Desdemona の潔白を証明することができないのは Othello が Desdemona に課すテストには致命的な欠陥がありテストがテストの用を足さないからである。Othello は Desdemona との信頼を保つ最後の砦を守るために彼が Desdemona に贈ったハンカチを彼女が Cassio に与えたのかという核心に迫る問いは口にしない。聞き手に真意の伝わらない迂遠な婉曲表現をすることによって Othello は自ら悲劇を回避できるチャンスを潰すのである。

Desdemona は Othello 本人に不貞を働いた疑いをかけられ、心変わりや売女を当てこする言葉を投げつけられても、死の直前に Othello と交わした会話の中で Othello に “That handkerchief/ Which I so loved and gave thee, thou gavest/ To Cassio” (5.2.47-49) と明確に言われるまで頑なに Othello を信じ続けた。Desdemona と対照的に Othello は Iago がちょっと思わせぶりの口ぶりをして異邦人としての彼の弱みを突いただけで Desdemona を邪推し彼女と結婚したことを後悔し始めた。この拙速さは Othello の嫉妬は Iago によって外から Othello の精神に植え付けられたものではなく元々 Othello の中に潜在していたものを Iago が顕在化させたにすぎないことを示唆する。同様に Othello は Iago に騙されたが故に破滅するのではない。Desdemona との信頼関係を傷つけないために核心に関わる問いを避ける Othello の高貴さが彼の破滅のもとになる。なるほど Iago は Othello の悲劇において重要な役割を果たす。しかし Iago はあくまで Othello の悲劇の触媒にすぎず Othello は彼に内在する嫉妬心と彼の高貴さ故に破滅すると言えよう。

3幕3場のさかしまな結婚の場面と4幕2場の Desdemona が Iago に嘆願する場面の類似性から *Othello* を読み解く

*テキストは Shakespeare, William. *Othello*. Ed. E.A.J. Honigmann. Revised ed. London: Arden, 2016.を使用した。

引用参考文献

- “Betray.” Def. 1a, Def 6. *The Oxford English Dictionary*. 2nd ed. 1989.
- Bradley, A. C. *Shakespearean Tragedy: Lectures on Hamlet, Othello, King Lear, Macbeth*. London: Macmillan, 1951.
- Briggs, John Channing. “The Problem of Inartificial Proof: Othello Peers into Bacon’s Universe.” *Ben Jonson Journal* 10 (2003): 161-77. Rpt. in *Shakespearean Criticism*. Ed. Michelle Lee. Vol. 131. Detroit: Gale, 2010. 168-75.
- Eliot, T. S. *Selected Essays 1917-1932*. New York: Harcourt, 1932.
- Halio, Jay L. “Reading *Othello* Backwards.” *Othello: Critical Essays*. Ed. Philip C. Kolin. New York: Routledge, 2002. 391-400.
- Hays, Michael L. “*Othello*: Courtly Love and Chivalric Justice.” *Shakespearean Tragedy as Chivalric Romance: Rethinking Macbeth, Hamlet, Othello, and King Lear*: 155-90. Rpt. in *Shakespearean Criticism*. Ed. Michelle Lee. Vol. 131. Detroit: Gale, 2010. 188-205.
- Leavis, F. R. “Diabolic Intellect and the Noble Hero: A Note on *Othello*.” *Scrutiny* Decembner 1937: 259-83.
- Moschovakis, Nicholas. “Representing Othello: Early Modern Jury Trials and the Equitable Judgments of Tragedy.” *Othello: New Critical Essays*. Ed. Philip C. Kolin. New York: Routledge, 2002. 293-323.
- Neill, Michael, ed. *Othello, the Moor of Venice*. By William Shakespeare. Oxford: Oxford UP, 2006.
- “Obedient.” Def. 3. *The Oxford English Dictionary*. 2nd ed. 1989.
- Rosenberg, Marvin. *The Masks of Othello: The Search for the Identity of Othello, Iago, and Desdemona by Three Centuries of Actors and Critics*. Berkley: U of California P, 1961.
- Sanders, Norman, ed. *Othello*. By William Shakespeare. 1984. Cambridge: Cambridge UP, 1988.
- 笹山隆編『ウィリアム シェイクスピア：オセロ』 大修館 1989年
- Shakespeare, William. *Othello*. Ed. E.A.J. Honigmann. Revised ed. London: Arden, 2016.
- Sher, Antony. “Iago.” *Performing Shakespeare’s Tragedies Today: The Actor’s Perspective*. Ed. Michael Dobson. Cambridge: Cambridge UP, 2006: 57-69. Rpt. in *Shakespearean Criticism*. Ed. Michelle Lee. Vol. 131. Detroit: Gale, 2010. 235-41.
- スタンリー ウェルス他著『シェイクスピア大図鑑』 三省堂 2016年